

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：乳児保育Ⅱ 英語表記：Infant CareⅡ ナンバリング：2313		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：加藤房江 担当形態：単独
科目／系列	／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／乳児保育Ⅱ		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの基本的考え方について理解できる。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法や環境について理解できる。 3. 乳児保育における配慮の実践について学び、指導計画の作成について理解できる。			
【授業の概要】 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの基本的考え方や養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法や環境についての理論と実際をすり合わせて理解し、計画の作成ができるよう考察を深めていく。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション、3歳未満児の発育・発達 第2回：3歳未満児の発育・発達 第3回：3歳未満児の発育・発達 第4回：子ども・子育てをめぐる現状と乳児保育の意義 第5回：養護及び教育の一体性と育みたい資質・能力 第6回：子どもの自己の育ちと主体性を尊重する保育 第7回：0歳児（乳児）の援助の実際 第8回：1歳児の援助の実際 第9回：2～3歳児の援助の実際 第10回：3歳未満児の援助の実際と保育環境 第11回：0歳児（乳児）の保育内容と遊び 第12回：1歳児以上3歳未満児の保育内容と遊び 第13回：長期的・短期的な指導計画と個別的・集団の指導計画 第14回：乳児保育を支える連携と集団での生活における配慮 第15回：集団での生活における配慮（食事・純真検定） 定期試験：なし		【授業時間外の学習】 課題プリントやグループワークにおいて主体的に臨む姿勢が大切になる。 事前学習と事後学習に1時間程度の時間が必要である。 自らが将来的課題を見つけてそれに向かって学習することが重要である。	
【授業の方法】 乳児人形を使い実際の技術を学び、保育実践を行う。また、視聴覚教材を通して実際の現場の様子			

を把握し、子どもの様子や保育の仕事内容を理解する。ループワークを通して能動的に実際の保育者役・子ども役を体験することで、保育を構成し、計画、立案する力を身につける。学生からの課題に対して、レポートや課題にコメントを入れてフィードバックする。	
【テキスト】 『見る・考える・創り出す「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林	
【参考書・参考資料等】 『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版） 『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版） 『マンガでわかる保育所保育指針』浅井拓久也 著 中央法規	
【学生に対する評価】 ループリック評価・授業内提出物・課題レポート・小テスト（70%）、授業参画度・発表（30%）等で判断する。	
【履修上の注意】 ・保育士になるための大切な授業であり、「乳児保育Ⅰ」で学んだことを基礎として、乳児保育の学びを深められるよう積極的姿勢で学ぶこと。 ・グループワークや模擬保育は協力して行い、演習に必要な持参物品の準備をすること。 ・受講にあたって、事前事後の学習を行い、積極的態で授業に臨むことを期待する。	
実務経験の有無：有	実務経験：元主任保育士
【実務経験を生かした教育内容】 保育士の経験を活かし、実践での子どもとの関わり方や保育士の職務内容を学ぶ等に役立つ授業を行う。	